

開設から30年

適応指導教室「であい塾」

皆様に支えられ30年

高山市教育長 中野谷 康司

さまざまな要因により不登校になった児童生徒が通う適応指導教室「であい塾」（一之宮町）が開設から30年の節目を迎えました。



7月24日には、卒業生や関係の皆様にご参集いただき「30年を振り返る会」を開催し、これまでの足跡を振り返りました。

「であい塾」の歩みは平成2年、市民文化会館内に前身となる教育相談室が設置されたのが始まりです。その後、中山公園や下水道センターなど、場所を変えながら現在の「であい塾」となりました。その間600人を超える児童生徒が在籍し、自己実現につながる貴重な体験をさせていただきました。

ここまで継続して、子どもたちの学習の補充、自立のための教育支援を続けてこられたのは、ひとえに支えてくださった関係の皆さまのおかげと、心より感謝申し上げます。今後、予測困難な社会になっていくと言われる中であります。高山市としましても、子どもの居場所づくり、学習の補充などを目的に、今後もこの「であい塾」を大切にして歩んでまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援ご協力いただけますようお願い申し上げます。



飛驒山脈ジオパーク構想ジオサイト(第21章)

平湯大滝

平湯大滝は日本の名瀑百選、岐阜の名水50選に選ばれている滝です。

落差64mの直瀑は痛快なまでに垂直に水を落とします。その大きな落差で水は飛沫となり瀑風に乗ってあたりに広がります。

この滝は、南にそびえる乗鞍岳の火山活動によって作り出された滝です。滝のまわりをよく見ると、U字の形をした岩盤が見えます。この岩盤は4万年前に乗鞍の北部、四ッ岳の噴火により流れ出した溶岩なのです。溶岩流の先端は平湯温泉スキー場近くまで到達したようです。

溶岩の下を見ると、下の地盤との間にすき間ができています。溶岩の下は岩盤ではなく堆積した土砂のようです。

溶岩の流れの中央部に、四ッ岳周辺に降った雨が寄せ集められて流れ下るようになりました。溶岩も流れる水に浸食されます。平湯温泉スキー場あたりにあった溶岩流の先端部は浸食され、滝はしだいに後ろへ下がりが現在の位置までやってきたようです。

平湯大滝周辺では、遠い海の底で生まれた岩石、乗鞍の山崩れの土砂、四ッ岳の溶岩を見ることができるとのことです。



(直井 幹夫)

問合 飛驒山脈ジオパーク推進協議会

0578-84-0038